

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	S 使える	複雑な文章の正確な読み取りと理解および語彙の正確な意味の理解、活用ができる。	必要な情報を用い、課題や目的に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	自分の意見、他者の意見を論理的にまとめ、表現する力を高めるとともに、その向上を図ろうとする。
	A わかる	近代以降の様々な文章を通して、論理展開の形式や語彙、文学の表現技法等を正確に理解する。	論理展開や描写、表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確捉えて表現できる。	自らの意見をまとめ、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
	基 B できる	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	自分の考えを適切に整理し、論理的かつ効果的に表現できる。	自分の考えをまとめつつ、周りの友人と共同して課題解決に努める。
	準 C する	文章展開および言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき、筋道を立て考えつつ、それを表現する。	授業に必要な教材の準備や、身だしなみ等を整える。
評価方法		授業時の観察・定期考査・小テスト・校内漢字テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト・レポート等	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での活動成果

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『文学の未来』（評論）『言語と記号』（評論）『檸檬』（小説）『スペインタイルの家』（小説）
2 学期	『クレールという女 言葉を生きる』（随想）『社会の壊れる時』（評論）『他者の声 実在の声』（評論） 共通テスト対策
3 学期	共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

・精選現代文B（東京書籍） ・精選現代文B 学習課題ノート（東京書籍） ・常用国語便覧（浜島書店） ・各種補助教材（プリント等）

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・ペア学習，グループ学習 ・プリント教材
--

科目名	古典B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	時間の経過による言葉の変化や，古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響を理解できる。	作品の成立した背景や他作品などとの関係を踏まえて古典を読み，内容の解釈や作品の価値の考察ができる。	古典作品を通して書き手の思いや当時の文化を理解しようとする姿勢をもつことができる。
	A わかる	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解できる。	必要に応じて書き手の考えや目的，意図をとらえて内容を解釈することができる。	古典作品を読むためのきまりや語彙を身に付けようすることができる。
	B できる	古典の作品に表れている言葉の響きやリズム，表現の特色などを理解することができる。	文章の種類を踏まえて，古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	古典作品に進んで慣れ親しもうとする姿勢をもつことができる。
	C する	古典の作品や文章の種類とその特徴を理解することができる。	構成や展開などを的確に捉え，文章の種類を理解することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 古文 随筆(枕草子)，物語(源氏物語・大鏡)，日記(蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・ 漢文 史伝(三国志・史記)，小説(人面桃花・杜子春伝)，漢詩
2 学期	・ 古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集) ・ 漢文 思想と寓話(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・ 私大試験対策
3 学期	・ 私大試験対策

何で学ぶか(教材)

・ 教科書 明治書院『新 高等学校古典B』
・ 副教材 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版) ・ 『新明説漢文』(尚文出版) ・ 『重要古文単語315』(桐原書店)

どのように学ぶか(授業方法など)

・ 講義 ・ ペア学習 ・ グループ学習 ・ 問題演習

科目名	数学演習	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	事象と数学のかかわりや，社会的有用性についての認識を深めるとともに，課題を設定し，解決までのプロセスを多角的に考察し，協働して論理的に解決しようとする態度を育てる			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学的に捉え，適切な数学的处理ができる。	S 使える 事象を多面的に捉え，それを数学的・論理的に表すことができる。	S 使える 自ら課題を設定し，既習内容を活用・応用することができる。
	A わかる 与えられた課題の解決方法を自ら導くことができる。	A わかる 事象を多面的に捉え，協働し数学的論理を考察することができる。	A わかる 自ら課題を設定し，既習内容を反復演習することで定着を図ることができる。
	B できる 与えられた課題について，指示した方法で解決することができる。	B できる 事象を理解するために，協働し考察することができる。	B できる 与えられた課題に取り組み，理解をするために自ら質問することができる。
	C する 基本的な事象について考え方や公式を選択し，回答することができる。	C する 解いた内容を言語化し，発表することができる。	C する 指示した内容を期限内に取り組み提出することができる。
評価方法	授業での演習 定期考査等の試験 記述式問題	グループ学習 発表 定期考査等の試験 記述式の問題	授業での演習 提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問
2 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版	新編数学Ⅰ
数研出版	新編数学A
数研出版	3TRIAL数学Ⅰ＋A
数研出版	新編数学Ⅱ
数研出版	新編数学B
数研出版	3TRIAL数学Ⅱ＋B

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習
スタディサプリ

科目名	日本史B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	歴史的思考力を培うなかで基礎歴史事項の確認とともに、多様化する現代社会の中での課題を考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治，経済，社会，文化，国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し，歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	A わかる	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	B できる	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて，現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学期	大学入試問題演習

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B（山川出版） 日本史のライブラリー（とうほう）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	数学演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	事象と数学のかかわりや，社会的有用性についての認識を深めるとともに，課題を設定し，解決までのプロセスを多角的に考察し，協働して論理的に解決しようとする態度を育てる			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	事象を数学的に捉え，適切な数学的处理ができる。	事象を多面的に捉え，それを数学的・論理的に表すことができる。	自ら課題を設定し，既習内容を活用・応用することができる。
	A わかる	与えられた課題の解決方法を自ら導くことができる。	事象を多面的に捉え，協働し数学的論理を考察することができる。	自ら課題を設定し，既習内容を反復演習することで定着を図ることができる。
	B できる	与えられた課題について，指示した方法で解決することができる。	事象を理解するために，協働し考察することができる。	与えられた課題に取り組み，理解をするために自ら質問することができる。
	C する	基本的な事象について考え方や公式を選択し，回答することができる。	解いた内容を言語化し，発表することができる。	指示した内容を期限内に取り組み提出することができる。
評価方法		授業での演習 定期考査等の試験 記述式問題	グループ学習 発表 定期考査等の試験 記述式の問題	授業での演習 提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問
2 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版	新編数学 I
数研出版	新編数学A
数研出版	3TRIAL数学 I +A

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習
スタディサプリ

科目名	日本史A	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目 標	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く。近現代の日本史の展開を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する。近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して、歴史的思考力を身に付ける。主体的な歴史学習を通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について考察し、国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える。			

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を意欲的に身に付け、近代社会が成立し発展する過程を十分に理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断することができる。課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。また、得られた資料や情報を効果的に活用し、討議を行うことができる。
	A わかる 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断することができる。課題についての考察や判断の過程や結果を、適切に表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、考察することができる。また、得られた資料や情報を活用し、討議を行うことができる。
	B できる 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を概ね理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、公正に判断することができ、課題についての考察や判断の過程や結果を、適切に表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、考察することができる。また、得られた資料や情報を活用し、グループ内で質問することができる。
	C する 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程をある程度理解することができる。	歴史的に形成された諸課題についての考察や判断の過程や結果を、表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、考察することができる。また、得られた資料や情報を活用し、グループ内等で発言することができる。
評価方法	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	私たちの時代と歴史 近代日本の形成
2 学期	東アジア世界の変動と日本 二つの世界大戦と日本
3 学期	第二次世界大戦後の国際社会と日本 現代世界と日本

何で学ぶか(教材)

日本史A（東京書籍）
日本史Aワークノート（東京書籍）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ討議

科目名	公民	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に生きる国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとすることができる
	A わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに、様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の諸課題について、考察し、主体的に解決しようとすることができる
	B できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとすることができる。
	C する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日々の課題に対して、主体的に理解しようとすることができる。
評価方法		・授業 ・定期テスト	・授業 ・定期テスト ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	国際政治のしくみと動向
2 学期	国際経済のしくみと動向 国際社会の現状と課題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

実践ノート型問題集現代社会 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペアワーク グループワーク ディスカッション

科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すると共に、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 自分の意見を適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	自然に相づちやアイコンタクトがとれ、積極的に関わろうとする。
	<i>A</i> わかる 相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	指定された時間内に正しい発音で、内容を分かりながら読める。	理解したことを他者と確認したり、意見を伝えたりすることができる。
	<i>B</i> できる 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすることができる。	指定された時間内に正しい発音で読める。また事実と意見などを区別して、理解できる。	理解できない部分をそのままにせず他者に聞くなどして解決することができる。
	<i>C</i> する モデル文を真似てゆっくりはつきり読み、丁寧に書くことができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業を受ける準備ができる。（用具、服装・整理整頓など）また教師の話を集中して聞くことができる。
評価方法	授業・定期考査・インタビューテスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・音読テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Discourse Marker, L1 Emperor Penguin L2 Caffeine, L3 Blood is Blood L4 Biomimetics
2 学期	L5 Communication without Words L6 Christmas Truce L7 Political Correctness L8 Global Water Crisis
3 学期	

何で学ぶか(教材)

啓林館『LANDMARK Fit』 English Communication Ⅲ 数研出版『必携英単語LEAP』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	体育	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準 S A B C 使 わ で す え か き る る る る る	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	基礎練習を正しくおこな い，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	英語演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	長文や文法，リスニングの問題演習により思考力，判断力を向上させることで大学入試共通テストや私立大学の入試レベルの学力を身につける。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 入試レベルの問題演習において，単語や慣用句など適切な語彙で正しく解答できる。	入試レベルの問題演習において，正しく解答することができる。	入試レベルの問題を積極的に解き，復習し，読解力や正答率を向上させるよう努めている。
	<i>A</i> わかる 演習問題において，語句の問題が正しく解答できる。	演習問題において，根拠に基づいて適切に解答できる。	演習問題を根拠に基づいて解くだけでなく，積極的に復習をし，弱点を補強しようと努めている。
	<i>B</i> できる 単語や語句の力が向上している。	演習問題において，自分なりの根拠に基づいて解答を導くことができる。	演習問題において，自分で考え，根拠に基づいて解答しようと努めている。
	<i>C</i> する 問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	LESSON1～LESSON7(文型，時制(1)，時制(2)，助動詞，受動態，不定詞・動名詞(1)，不定詞・動名詞(2))
2 学期	LESSON8～LESSON14(分詞・分詞構文準動詞のまとめ，比較，関係詞(1)関係詞(2)，仮定法，否定／注意すべき構文)
3 学期	

何で学ぶか(教材)

英語総合問題集UNITE STAGE 2.5 (数研出版) 英検過去問 大学入試過去問
--

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 ペア学習・グループ学習 講義による解説

科目名	基礎体力	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	初動負荷マシンを利用したウェイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋力を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育む。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身につけ，どこ筋肉・関節と連動しているか理解している。	柔軟な身体を獲得し，さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現できる。	初動負荷とレーニングを生かし，問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる 弛緩→伸長→短縮のリズムが崩れず，応用したポジションでマシン動作を身につけている。	自分の体の状況を理解し，マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる すべてのマシン12種目の機能を理解し，適切な動作を身につけている。	初動負荷理論を理解し，用語や単語を適切に用いることができる。	できない所を自ら人に聞いたり，他の人が困っている時に一緒に考察することができる。
	C する 基本的なマシン4種類の機能を理解し，適切な動作を身につけている。	柔軟な身体を求め，機能解剖や身体の仕組みなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループトレーニング 映像学習（動画）

科目名		選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目 標	各運動の合理的な実践を通じて、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、障害を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。				

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	各競技での経験を活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し、より大きな力を発揮するために、集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	専門体力を有し、競技に応じた技術を身に付けている。	専門競技に必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業	授業	授業

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎練習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技に必要なもの

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・ペア学習・グループ学習 ・競技毎の練習
--

科目名		総合的な探究の時間	授業時数	週 2 単位	3 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	体育祭の演技項目である『心技体』の演技構成を考えるとことや1つの目標に向かって共に力を合わせて活動することを通して、協働力，実行する力を養う。				

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	演技構成をもとに，言われた以上の工夫を加えて知識・技能を使える。	演技構成を考える中で，特に独創性があり，他者との確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み，課題を自ら設定して解決することができる。
	A わかる	演技構成をもとに，求められる水準で知識・技能を使える。	演技構成を考える中で，特に独創性があり，他者との確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して積極的に取り組み，与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる	演技構成をもとに，他者とも協力しながら課題をやり遂げることができる。	演技構成を考える中で，他者との確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して熱心に取り組み，与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する	演技構成をもとに，難しい課題にも取り組もうとする。	演技構成を考える中で，他者と協調しながら構想を形にしようとするができる。	学習内容に取り組み，与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法		演技構成案の内容などの成果物，演技の試験，練習姿勢	演技構成案の内容などの成果物，グループ活動，練習姿勢	演技構成案の内容などの成果物，グループ活動，練習姿勢

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体育祭『心技体』演技構成・演技進路学習
2 学期	体育祭『心技体』演技構成・演技進路学習
3 学期	進路学習

何で学ぶか(教材)

--

どのように学ぶか(授業方法など)

- グループ討論 - 実技
--